

令和5年度 藤枝順心中学校・高等学校 学校評価

建学の精神		女性の自律・自主と先度他の心の涵養		
教育目標		白梅精神のもと、「清楚な生徒」、「芳香を発する生徒」、「忍耐のできる生徒」を育てる。		
本年度の重点目標		①生きる力の育成 ④積極的な情報発信	②個々の適性に応じた進路指導 ⑤自己管理の育成	③社会生活に適応する力の育成 ⑥危機管理意識の高揚
重点目標	評価項目	(1) 具体的方策 (2) 評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び今後に向けての取り組み
①生きる力の育成	ICTを活用した教育環境の整備	(1) 具体的方策 Google Classroomを再導入し、連絡事項や課題の配信などを通して生徒がスマートフォンやタブレットを活用した教育活動に取り組める環境を整備する。		
		(2) 具体的指標 生徒がICT機器を使用する場面（スタディサプリ含む）を平均して週に3回は設けることができた：A 週に1回は設けることができた：B 週に1回も設けることができなかった：C		
①生きる力の育成	キャリア教育の充実	(1) 具体的方策 総合的な探究の時間で使用する探究プログラム（1年：Inspire High、2年：ぼらぷら）を有効に活用し、生徒が自分自身の強みや興味・関心などを把握し、進路選択を考える機会を作る。		
		(2) 具体的指標 探究プログラムの活用により、7割以上の生徒が進路選択を考えるきっかけとなった：A 5割以上：B 5割未満：C		
②個々の適性に応じた進路指導	[進学] 進学実績 & 学力の向上	(1) 具体的方策 ア 今年度もチューター制で指導を行うが、中堅以上の大学や看護医療系においては、志望校が決まった生徒から随時、学年及び進路課職員で指導を実施する。 イ 看護医療系は指定校推薦から一般入試まで個々の能力に合わせた指導を行う。 ウ 模試対策は教科担当者が中心となり、例年よりも早い時期から指導をし、授業でも過去問題を扱う。 エ スタディサプリはシラバスを作成し、計画的な課題配信と確認を行う。		
		(2) 具体的指標 ア 中堅私大は河合塾全国偏差値47.5以上の大学とする。 イ 看護医療系志望者は全員合格させる。 ウ 進研模試で全国偏差値50以上を特進はクラスの50%以上、総進はクラスの10%以上を目標とする。 エ サプリ到達度テストの正解率を高1は70%以上、高2・3は60%以上を目標とする。 達成項目3つ以上：A 達成項目2つ：B 達成項目0または1つ：C		

重点目標	評価項目	(1) 具体的方策 (2) 評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び今後に向けての取り組み
②個々の適性に 応じた進路指導	〔就職〕 入社後の ミスマッチをなくす	(1) 具体的方策 ・自分に合った、自分のやりたい仕事は何かをよく考え、企業研究を十分に行う指導を 実践することで入社後のミスマッチをなくす。 ・企業に来校していただき、生徒が希望する 企業から説明を受ける機会を設ける。 (20社予定) ・同友会主催のオンラインによる企業説明会 に積極的に参加させる。 ・企業訪問や卒業生、行政機関、企業採用担 当者等の講話を通して、企業への理解を深 め、社会人になることへの意識高揚を図 る。		
		(2) 具体的指標 ・入社後1～3年目の卒業生を対象にアンケ ートを実施して、現況について報告しても らう調査を行う。 ・調査結果より 全員がミスマッチなし・・・・・・・・A 1%がミスマッチあり・・・・・・・・B 1%以上がミスマッチあり・・・・・・・・C		
③社会生活 に適應する力の育 成	「清楚・ 芳香・忍 耐」の理 解と実践	(1) 具体的方策 白梅精神に基づく教育目標「清楚・芳香・ 忍耐」の意味を理解させ、生徒一人ひとりが 意欲的に取り組むことができるよう、初期指 導やHRで目標を設定させる。 (2) 具体的指標 学期終了時に生徒指導課の反省表を記入 し、振り返りを行う。「よくできた」「おお よそできた」と自己評価する生徒が7割以上 ： A さらに次の目標を設定することができ、 意欲的に取り組んでいる 5割以上7割未満： B 5割未満： C		
	礼法・学 校規則の 理解と遵 守	(1) 具体的方策 講話をはじめとする礼法・学校の規則・社 会ルールについて初期指導やHRを通して理 解させ、遵守させる。 (2) 具体的指標 講話の聴き方や態度、移動時の行動が7割の 生徒にしっかりと身につけており、校内巡視 を通しての教室の整理整頓が8割以上徹底さ れている ： A 6割以上8割未満徹底されている： B 6割未満： C		
	違反行為 問題行動 の防止と 指導	(1) 具体的方策 違反行為や問題行動は1報で情報共有し、 生徒指導課会議において指導方針について協 議し、校長の指示を仰ぎ実施する。 (2) 具体的指標 生徒全員が安心・安全な校内生活を送れる ことを目指す。 違反行為や問題行動を未然に防ぐように校 則の確認をHRや長期休業前に必ず行い、規 範意識の向上を目指す。謹慎以上は10件以 内、戒告は20件以内： A 謹慎以上15件以内、戒告30件以内： B 謹慎以上16件以上、戒告31件以上： C		

重点目標	評価項目	(1) 具体的方策 (2) 評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び今後に向けての取り組み
④積極的な 情報発信	新規連絡 網の活用	(1) 具体的方策 「さくら連絡網」を活用できるように、職員研修会を実施し、積極的な情報発信が可能な体制を整える。		
		(2) 具体的指標 年度末に利用満足度アンケートを実施し、満足度80%を目標にする。 A : 80%以上 B : 70%以上 C : 70%未満		
⑤自己管理 の育成	実態に即した保健 教育の実施	(1) 具体的方策 健康診断の実施、事後措置等を通して、生徒及び教職員の健康の保持増進を図り、感染症の状況等、実態に即した健康教育を実施する		
		(2) 具体的指標 健康診断結果を通して健康状態を把握させ、保健だよりを通して時期に合わせた情報を提供し、感染症が流行する前には、注意喚起を行う。 欠席率が全体で4割未満 : A 4割以上5割未満 : B 5割以上 : C		
	健康相談 の充実と 情報共有	(1) 具体的方策 健康相談の充実を図り、生徒の支援を行う。 担任等と情報共有、必要に応じスクールカウンセラーとの連絡を密に行い、生徒の学校生活がよりよいものとなるようにする。		
(2) 具体的指標 学期終了時に生徒指導課の反省表 教育相談項目にて、教員（スクールカウンセラー含）に相談できる生徒が6割以上 : A 4割以上6割未満 : B 4割未満 : C				
⑥危機管理 意識の高 揚	体験型防 災訓練の 実施	(1) 具体的方策 各種の体験型防災訓練を実施し、生徒及び職員の危機管理意識を高める。		
		(2) 具体的指標 防災アンケートで危機管理意識が高まったと感じる生徒・職員が90%となることを目標とする。 90%以上 : A 75%以上 : B 75%未満 : C		